

事務事業名		雲南市UIターン促進空き家リフォーム事業		所属部	政策企画部	所属課	地域振興課					
総合計画体系	政策名	〈I〉市民と行政の協働によるまちづくり《住民自治》		所属G	地域振興G	課長名	加津山幸登					
	施策名	〈02〉定住・交流の推進		担当者名	原田憲一	電話番号	0854-40-1013					
	目的	対象	市外の人	意図	A)市に移住してもらおう。B)市を好きになってもらい、まちづくりを応援してもらおう。	(内線)	3517					
	基本事業名	〈005〉移住のための情報提供・相談の充実		予算科目	会計	款	大事業	大事業名	定住対策促進事業			
目的	対象	雲南市に関心がある市外の人	意図	雲南市へ移住する気持ちをもってもらう。	項	目	中事業	中事業名	UIターン促進空き家リフォーム事業			
					0	1	1	0	0	3	大事業名	
					0	5	6	5	0	5	中事業名	事業

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (24年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
地域自主組織と協働し、空き家子育て世代のUIターン用住宅として整備する。入居者の希望に応じてリフォームし、居住10年で以降の家賃を免除する。平成24年度はモデル事業として、海潮地区振興会と協働し実施(1棟)。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	24年度実績(24年度に行った主な活動)	25年度計画(25年度に計画する主な活動)			
	② 活動指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	① 空き家住宅の取得		・24年度の取組成果を検証する			
	② 入居者募集(現地見学ツアー)		・地域自主組織へ事業成果を報告し、次年度以降の実施計画をたてる			
	③ リフォーム工事					
	(実績) 30代ご家族3名が入居(京都市より移住)					
	ア 空き家リフォーム住宅の整備	棟			1	0
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	子育て世代のUIターン希望者	ア 定住相談件数	件			176	150
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	
リフォームされた空き家へ入居する。	ア 空き家リフォーム住宅への入居者数	人			3.0	0.0	
	イ						
	ウ						

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(24年度決算)	② コストの推移	単位	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(計画)
○空き家物件取得費(土地・建物) 4,300千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
○設計委託料 210千円		県支出金	千円		2,500	
○リフォーム工事費 5,401千円		地方債	千円		6,100	
○住宅管理経費ほか 132千円		その他	千円		0	
		一般財源	千円		1,443	
	事業費計(A)	千円			10,043	
	人件費	正規職員従事人数	人			
		延べ業務時間	時間			
		人件費計(B)	千円			
	トータルコスト(A)+(B)	千円			10,043	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
空き家は増加傾向にある。空き家への入居を希望する定住相談件数も増えており、東日本大震災以降は子育て世代からの問合せも増えている。	新たな取り組みであり、本年度の取り組みをモデルケースとして検証していく。	空き家の活用、子育て世代のUIターン促進は雲南市の喫緊の課題であり、議会や地域からも注目をいただいている。

事務事業名	雲南市UIターン促進空き家リフォーム事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
-------	----------------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	新たな取り組みであり、事業成果を検証しながら次年度以降の取り組みへ反映させていく。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	子育て世代をターゲットとした特色ある事業であり、定住人口確保に向け地域間競争が激化する中で、移住希望者へPR効果がある。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		住宅リフォーム
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる		<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		県補助金と過疎債、家賃収入を財源としており、一般財源は極力抑えている。
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		事業初年度であり削減余地はないものとする。
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		本年度はモデル事業として海潮地区振興会と協働で実施している。次年度以降は全地域自主組織に対し、実施希望を意向確認する。入居希望者に関しては、全国公募し、審査委員会にて選定している。

評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	地域自主組織と協働で実施することで受入れ態勢を整えることができた。ターゲット(子育て世代)を明確にしており、現地見学ツアーを開催することで、地域を理解してもらうことができる上、雲南の魅力PRIにもつながった。	
	B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持		●	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持		●																
	低下	×	×																
本年度をモデルケースとして検証し、次年度以降の取り組みへ反映させていきたい。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。          コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下は改革・改善とはならない。</p>																		